

東条と福岡

令和5年 3月

醸造家の夢、時を超えて現代に甦る。



朝倉

あさくら

味と薫りをそのままに、

檜樽熟成『朝倉』

今をさかのぼること100年以上も昔、「アドレナリン」の抽出結晶化に成功したことで「バイオテクノロジーの父」としてアメリカでも著名な高峰謙吉博士。アメリカに渡った博士は、ウイスキー醸造にあたり「モルト」でなく日本の「麴」を使用する方法を実用化しようと考えました。そのおしりさ・効率性には、アメリカの醸造家も関心を寄せていたようですが、結局アメリカの地に「麴」を使用したウイスキー造りが根付くことはありませんでした。

そして、現代。私たちが造る「麴」を使用した檜樽熟成香焼酎は、まさに博士の意志を継ぐものといえます。8年以上熟成した、樽から採って出しの、あの馥郁とした香気を極力損なわずに味わっていた、いただきたいの想いから、「朝倉」はあえてリキュールというカテゴリーでお出ししています。



リキュール『朝倉』



■商品の詳細についてのお問い合わせ

福岡あさくらの老舗蔵元 株式会社 篠崎

〒838-1303 福岡県朝倉市北良松185 ☎0946(52)0005

■商品のご注文はこちらまで

蔵元直売店「千の蔵」

☎0120(531)699 FAX 0946(52)1699

※お酒は20歳になってから。※妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。※飲みすぎには十分注意してください。※飲酒運転は法律で禁止されています。

高校よせがきノートの店 新橋

有薫酒蔵

ゆうくんさかぐら

高校よせがきノート(新橋の居酒屋ノート)を
はじめたのは1987年7月4日、
2022年に3267冊になりました。
できるだけ長く続けたいと思っています。

新橋有薫ホームページ

<http://www.shinbashi-yukun.com>

高校よせがきノート ホームページ

<http://koukou-yosegaki.com>

松永洋子ブログ “おかみの日々徒然”

<http://blog.shinbashi-yukun.com>

東京都港区新橋1-16-4 リソな銀行地階

03-3508-9296

休業日 日曜・祝日・月曜

有明海・玄海の珍しい魚介類を毎日空輸。
九州の産品にこだわって、
数々のメニューでおもてなし、
家庭的雰囲気の中、親子で皆様のお越しを
お待ちしております。

九州郷土料理

赤坂 有薫

AKASAKA YUKUN

〒100-0014

東京都千代田区永田町 2-14-3 東急プラザ赤坂 3F

電話 03 (3592) 0393 (代)

店主 高山喜一郎 (昭42年 明善高校卒)

<http://www.akasakayukun.com>

E-mail yu-kun@dmil.plala.or.jp

北京有薫「一心」

五道口店・北京師範大店・経貿店・建外店も宜しく

郷土の先達

(題字 山本卓眞元会長筆)

有吉憲彰は、明治二十五年(一八九二)に遠賀郡浅木村(現遠賀町浅木)で生まれ、浅木尋常小学校を卒業後、中学修猷館に進学した。中学卒業後は、地元遠賀の浅木尋常小学校の教員として、四十三年九月から翌年三月まで教壇に立った。その後教職を辞し、アメリカのワシントン大学へ留学した。

長期のアメリカ留学を終え、大正十四年(一九二五)春、福岡市内の一六旅館に「東西文化社」という事務所を設け、九月より福岡および福岡人の郷土雑誌として『福岡』を発刊した。

この雑誌発刊の辞を憲彰は次のように述べている。

「秀麗な自然の景勝の中に、福岡は西日本唯一のメトロポリスらしい雄偉な巨軀を横たえています。…中略…この秀麗な自然を友とする所謂福岡人との、密接不離な合調的結合を欲いで、どうして久遠に伸び、永劫に栄ゆることが出来ませう! されば『福岡』—之は、それとこれとの間を結び合わせるに、些かも犬馬の労を取らうと云うところから、飽くまで福岡



及び福岡人の機関雑誌として忠実に始終しようとするものであります」
憲彰はこの雑誌

179

ありよしけんしょう
有吉憲彰

—郷土雑誌『福岡』を発行し、
郷土史研究に貢献—

発行期間中に、野口雨情、徳富蘇峰、島崎藤村、田山花袋、武者小路実篤、柳原白蓮、久保より江、中村研一、夢野久作、頭山満、黒田長成、犬養毅、浜口雄幸、広田弘毅、安川敬一郎、伊藤傳右衛門、麻生大吉等を自ら訪ね歩き、漢詩、絵画、色紙、和歌、メッセージ等を拝受した。

また、この雑誌発行と同時に、福岡在任の史学・考古学・民俗学・郷土史に心のある人を集め研究会を開いた。さらに郷土の貴重な文献を翻刻し、『福岡』に掲載したことにより、一般庶民が読むことができたのは大きな成果となった。

昭和五年から六年にかけては、郷土史関連の刊行物を出版したが、中でも、青柳種信自筆の『柳園古器略考』の復刻出版は大きな事業で、出版費用の掛かるコロタイプ版として出版したのが好評であった。

太宰府天満宮本殿裏にある菅公歴史館は、大正初期に建てられたが、徳富蘇峰をここに招待するために、後に太宰府町長(現太宰府市)となった鬼木忠造と一緒に、徳富蘇峰の許へ足を運んだこともあった。

八年には、考古学者の森本六爾、宗像女学校教諭の田中幸夫と共に、遠賀町上別府の「城の越貝塚」を発掘したところ多数の土器・貝殻・動物骨を発見した。ここから出土した土器は「城の越式土器」と命名され、弥生時代中期初頭の土器の指標となつて

いる。この森本六爾は松本清張作品『断碑』の主人公のモデルとなつており、清張は若いころ『福岡』を読んでいたと云われている。

一〇年には、「日本海海戦会」のメンバーである憲彰と中野昇他有志が、日本海海戦で指揮をとった東郷平八郎を顕彰するために福岡市東公園に胸像を建立。憲彰は、蘇峰宛にこの胸像への揮毫のお願いの手紙を出しており、その手紙が徳富蘇峰記念館に残されている。

筑豊の炭鉱王と言われた伊藤傳右衛門の養子である秀三郎は、憲彰についてこう言った。「私には子供が沢山あるが、偉い人間になって呉れる様にはばかりは思っていない。各々が自分の好きな一事に熟注するような人間になって呉れるといいと思つている。差当り貴君のような郷土史などに興味をもつて、その道に一生を捧げるといふような者も出来てくれるといいと思つている」。このことは伊藤秀三郎追悼集『秀影』に記されている。

また二十六年四月発行の『文化福岡』(福岡県立図書館報)に、福岡在任の郷土史家である筑紫豊氏が「私は過去において有吉氏のような懐かしく慕われないのである」といふ随想を寄せている。

郷土雑誌『福岡』は、第六五号を最後に突然の発行中止となり、有吉憲彰の最期も不明のままである。

参考資料 雑誌『福岡』(東西文化社)

雑誌『敍説Ⅲ』第5号中の特集「福博タウン誌グラフィティ」(生住昌大著 花書院)

写真提供 『福岡県郷土叢書』(文献出版)

執筆者 水口 一志(福岡県文化財保護指導委員)

画家

京都 絵美氏
Miyako Emi何百年も残る作品を
一枚でも描きたい

PROFILE

- 1981年 福岡県生まれ
 2007年 東京藝術大学美術学部日本画専攻卒業
 2009年 同大学大学院文化財保存学専攻（保存修復日本画）
 修士課程修了
 2012年 同大学院美術研究科同専攻博士後期課程修了
 博士号取得（文化財）
 東京藝術大学第6回お仏壇のはせがわ賞特別賞受賞
 東京藝術大学 大学院美術研究科教育研究助手
 （～2015年3月）
 2015年 東京藝術大学 大学院美術研究科非常勤講師
 （～2018年3月）
 2016年 Seed 山種美術館日本画アワード大賞受賞
 作品『ゆめうつつ』
 現 在 東京藝術大学専門研究員、大正大学非常勤講師
 画廊、百貨店を中心に個展、グループ展多数
 創作活動の傍ら東洋絵画の材料、技法研究を続ける



『余情』 絹本 著色 2021年

画家を目指した中学、高校生時代

福岡県の田舎の町で育った私は、小さいころから絵を描くことが好きでした。父は独学で絵を学んだ人ですから、そういう影響もあったかもしれません。中学に入ったころには、将来は美術関係の大学に進みたいと思うようになりしました。高校では英語や歴史、特に日本史が好きでした。これは将来日本画を選ぶ一因になりました。部活では、美術部に入り油絵を描いていました。地元では実際に日本画を見る場所も機会もなく、福岡市美術館に何度か行ったことがありましたが、そこでは印象派の絵が記憶に残っています。

日本画を目指したのは、知らないことをやってみようという好奇心も多分に作用したと思います。東京藝大を目指す私に対し、父親は、娘がそこまでやる必要はないだろうという意見でしたが、母親は東京で四年間大学生活を過ごした体験から、私の背中を押してくれました。

東京藝術大学を目指した日々

高校卒業後、東京藝術大学を受験するために上京しました。日本画を受験する生徒だけで一〇〇人ほど在籍する大手の予備校に通いましたが、最初の実技模試での成績は最下位グループでした。地元では絵が上手だと言われている、何年も画塾に通っていたのに、鉛筆の持ち方から指導され、基礎からやり直しのような苦しい日々でした。

地元の先生たちは私大のデザイン専攻や油画専攻の出身で、藝大の日本画専攻の受験対策はできていなかったのです。東京と地元との美術を学ぶ環境の格差を感じた経験でした。東京藝大日本画専攻は定員二十五名で、当時倍率は三十倍ほどでした。結局三年間の浪人生活の末、ようやく合格することができました。

日本画とは

日本画について、馴染みのない方もおられるかもしれませんが、簡単に説明させていただけます。「日本画」は、明治期以降の「西洋画」に對置する概念で、基本的には近代以前の絵画とは区別されます。東京藝大の前身である東京美術学校の初代校長となった岡倉天心や、東洋美術研究家でポストン美術館東洋部の主管となったアーネスト・フェノロサが振興した新しい「日本画」は、伝統的な技法や様式をただ踏襲したものではなく、新たな民族的アイデンティティーの創出を目指したものでした。結果的に日本画は西洋的な造形思想や絵画観を取り入れながら展開し、また、絵画材料も時代とともに変化したり、新たに開発されたりしています。

日本画制作に必要な画材

日本画は伝統的には和紙や絹に描かれることが多いです。板材や土壁にも描くことができます。古くから使われ

ている絵具には、鉱物を砕いた群青、緑青、辰砂などの岩絵具、貝殻から作られる胡粉や土を精製した黄土や朱土などのほか、人工的に作られる水銀朱や鉛丹などがあります。金・銀の箔や泥、虫からとれるコチニールやラック、植物性の藍、藤黄などの染料も使います。これらを膠で画面に接着させます。膠はゼラチンのようなもので、主に牛皮、鹿皮が原料です。

伝統的な絵具の色数は限られているため、明治時代になって、新しい材料を取り入れるようになりました。なかでも、人工的に色ガラスを作った粉にした「新岩絵具」が明治時代の終わりに頃に開発されました。現在では、新岩絵具が日本画制作の中心的な材料になっています。これらの画材は容易に使いこなせる物ではなく、技法を習得するには多くの時間と根気が必要です。



「凜」 絹本著色 2017年

思い悩んだ学生時代

学部の日本画専攻では、テーマだけ与えられて制作し、仕上げた作品の講評会の時のみ先生にご指導を受けるような、個々の学生の自由に任せた授業で、個別の指導はほとんどありませんでした。当時は平面絵画の表現はやり尽くされていて、特に日本画は古いといった空気もあり、自分が何をやっていいのかわからなくて迷ってばかりでした。ただこの頃古美術研究旅行で、京都や奈良に初めて行ったのは本当にいい経験でした。古社寺の宝物を拝観し、それらを育んだ歴史、風土に接したことは私にとって大きな財産になりました。

大学院で保存修復日本画を学ぶ

学部卒業後は文化財保存学専攻の修士課程に進み、田淵俊夫先生、宮廻正明先生に師事し、古典模写や修理・装



「烏骨鶏」 絹本著色 2022年

潢実習を通して伝統的な日本絵画の材料、技法や、保存修復について学びました。大学で本来勉強しなかったことであり、元々興味があった歴史学分野とも繋がる内容だったので、研究がとても楽しく、博士課程まで進みました。

それまでは厚い和紙を使っていたのですが、この頃から絹に描くようになりました。画材である絵絹は、着物とは織り方が違います。日本では岐阜県にメーカーが数社残っています。絹糸はブラジル製になっていて、絹を織るための機はすでに製造を終了しています。何十年前に作られた古い織機を修理しながら細々と続けているのが現状です。材料がなければ作品を作り続けていくことはできません。文化財の修復についても同じです。東洋絵画は百年に一度は修理を行う必要があると言われますが、良い材料や道具がなくなれば、文化財を維持していくことができません。私自身、材料を作る業者さん、職人さんたちに支えられていますし、こちらも良い材料を使い続けていくことで、材料や技術の継承に貢献できればと思います。

山種美術館日本画アワード大賞受賞

一九六六年に日本画専門の美術館として開館した山種美術館が、日本画の新たな創造に努める優れた画家の発掘と育成を目指して二〇一六年に初めて開催した「Seed 山種美術館日本画アワード」で、大賞を受賞しました。受

賞作品『ゆめうつ』で描いた、横たわる女性に重ねた夜空のイメージは、郷里で見えていた満天の星空の、現実の生活を忘れるほど美しく、同時に、飲み込まれてしまいうでどこか恐ろしさも感じた記憶に基づいています。審査員の方々からは「仏画研究の成果が生かされている」、「女性像が古典的な描法によって精緻に描かれている」という評価をいただきました。

県人会の皆様へ

「Seed 山種美術館 日本画アワード」での受賞をきっかけに多くの個展やグループ展の機会をいただくようになりました。今後は、今年六月から京阪百貨店守口店、十月に京都祇園の画廊「大雅堂」で、また来年春には京都の仁和寺で個展を開催する予定です。

絵絹の繊細な美しさを活かしつつ、強さ、深みのある作品を描くことが理想です。そして長く描き続け、何十年、何百年と残る作品を一枚でも描くことができればと思っています。県人会の皆様には今後個展や展覧会の会場でお会いできれば嬉しく思います。今後ともよろしくお願いたします。



京都 絵美氏

インタビュー
牛島 康明
(編集委員長)



ふじわら せいじ
藤原 誠二
(田川市)

野球に育てられて・・・

田川市出身の藤原誠二と申しま
す。田川市といえば以前は『青春の
門』で話が弾んだのですが、最近
は「知らない」と言われることが多
くなりました。

香春岳を見て育ち、田川中学入学
時より野球を始めました。高校は門
司工業高校（現豊国学園高校）で、
二年の秋季九州大会で優勝し、春の
選抜大会出場を決めたのですが、開
会式当日の朝、辞退することになり、
試合をすることなく福岡に戻りまし
た。甲子園練習や開会式の練習で甲
子園の土は踏みましたが、かなり苦
しい思い出です。

縁があつて東京の国士舘大学（東
都大学野球連盟）に入学。四年の時
秋季リーグ戦で優勝し神宮大会に出
場。当時の仲間とは他大学も含めて、
今も付き合いが続いています。
就職は電電東京、二年目に都市対
抗野球大会優勝。

現役引退後はNTT東京の監督を
経験し、現在は日本野球連盟などで、
役員としてアマチュア野球のサポー
トをしています。

田川市には毎年数回、墓参りなど
で帰省しています。両親は他界して
実家もありませんが、帰省の楽しみ
は中学、高校時代の仲間と一杯やる
ことです。毎回同じような話になる
のですが、その都度新鮮に笑ったり、
意見したり・・・こういう仲間がいて
くれたから頑張つてこられた・・・大
切な友人たちです。

野球を通じて、福岡でも東京でも
本当に素晴らしい仲間に出会うこと
ができました。

現在、NTTアーバンバリユーサ
ポート(株)に勤務しています。電電東
京、NTT東京、NTT東日本と四
十三年間勤め、硬式野球部には十八
年間所属。退部後は主に営業職に就
き、現在に至っています。

六十五歳を迎え、春からは新たな
グラウンドで再スタートを切る予定
です。楽しみでもあり不安でもあり
ますが、おおらかに且つ力強く、ま
だまだ頑張るつもりです。

福岡県人会では新参者ですが、ど
うぞよろしく願ひいたします。



あのひとこのひと No.194



なかがわ えりか
中川 絵梨香
(久留米市)

福岡と東京で紡ぐ縁

今回、この執筆のお話をいただき、
自分の人生を振り返りました。

高校まで過ごした久留米。人前で
歌うのが苦手だった私は、小三で久
留米児童合唱団に入れられ、度胸が
ついたのか楽しさを感じるように。

中学生で初めて劇団四季の『オペラ
座の怪人』を観劇。その時「私はあ
の舞台に立つんだ！」と思い込んで
しまったのが事の始まり。高校で進
路を決める時に「東京の音大に行き
たい」と話したら親は猛反対。「お
父さんを説得しなさい」と言われ、
涙ながらに頼み込んだ高三の夏。反
対は続き、音大の願書を受け取る準備も
しながら福岡の大学を受ける準備も
していた高三の冬。「本当に後悔し
ないか」と自問自答し、半ば強引に
受験、上京することになりました。

劇団四季に入るために入学した
フェリス学院大学。音大受験の準
備期間は短く、実力はなかったけれ

ど、誰よりも意欲は強く、先生方も
お力を貸してくださいました。

久留米に帰省した際に友達と遊ん
だ帰り、駅まで迎えに来てくれた父
が「絵梨香も友達と同じように福岡
の大学に行けばよかったのに」と
いった言葉が今でも胸に。親には最
終的に私の意志を尊重してもらった
事、感謝しています。そして、オー
ディションのために友人は、バレエ
のシューズやレオタードをプレゼン
トしてくれ、先生方は歌や写真など
にアドバイスしてくださり、みん
なが後押ししてくれた事、忘れませ
ん。

念願の劇団四季入団、退団、他団
体への出演等いろんな苦楽を経験
し、東京で過ごした年月は人生の半
分に。郷里のご縁が繋がる時は嬉し
さを感じ、先日は久留米のラジオに
も出演させていただきました。銀座
で開催したBirthday Liveには、福
岡から来ていただいたり、ライブ配
信を見てくださった方々からの応援
が励みになりました。

いくつになっても未熟者の感が拭
えませんが、私の礎は福岡にあり。
福岡でコンサートをするのが夢で
す。



総 合

県政だより

**「あまおう」は本格販売開始から20周年！
～今田美桜さんが「博多あまおう大使」に就任～**

今年度、福岡県が誇るブランドいちご「あまおう」が本格販売開始から20年を迎えた。

20周年を記念して、福岡県出身タレントの今田美桜さんが「博多あまおう大使」に就任し、先日東京で開催された「博多あまおう20周年プレスイベント」では、「全国で愛されている『あまおう』をさらに盛り上げるため頑張ります。」とコメントした。

豪華賞品が当たる販売キャンペーンを始め、テレビCMやSNSによる「あまおめダンス」動画の配信を通して、「あまおう」の魅力をさらに多くの方に知ってもらうようプロモーション活動を実施中。20周年の「あまおう」を是非味わっていただきたい。

20年の感謝を込めて、「博多あまおうは20周年、『あまおめ』なのだっ！」



《問い合わせ先》

福岡県園芸振興課 TEL：092-643-3488

以下9ページまでの記事は西日本新聞社のご厚意により許可を得て転載しています。2月8日までの記事から抜粋。

**美容技術大会、福岡市の前野さん全国V
中振袖着付部門**

全国の美容師がヘアカットやセット、着付けの技術を競う全日本美容技術選手権大会（美容連合会主催）の中振袖着付競技で優勝した前野直子さん（50）＝福岡市南区＝らが1月30日、県庁を訪れ、服部誠太郎知事に結果を報告した。

大会は1962年に始まり、昨年11月の大会で50回目。競技は着付け、カット＆ブローなど各部門に分かれて行われた。県勢では前野さんのほか、フリースタイルカットで前田喜彦さん（34）＝宇美町＝が準優勝、中振袖着付で荒木千文さん（56）＝大牟田市＝が金賞2位、カット＆ブローで堺和晶さん（46）＝春日市＝が入賞した。

4人は着付けたり、カットしたりしたモデルの写真を披露。前野さんは「コツコツ努力を積み重ね

た。優勝してうれしい」と述べた。知事は「県における美容技術の高さを全国にアピールできた」とねぎらった。

**福岡の食材を香港に売り込め
県がメディアやインフルエンサー招きフェア**

新型コロナウイルスの水際対策が大幅に緩和された香港で、インバウンド（訪日旅客）の回復や福岡県産品の輸出拡大に向けた「福岡フェア」が開かれた。県輸出促進課が企画。農林水産物の最大の輸出先である香港の日本料理店で、県産食材を使った料理を提供しているほか、地元メディアやインフルエンサーを招待した試食会も開いた。

福岡フェアは1月中旬から2月末まで、香港にある日本料理店「なだ万」の2店舗で開催。「はかた地どり」やイチゴ「あまおう」、タケノコ、八女茶、筑前町特産の黒大豆「筑前クロダマル」、高級魚のクエなど県産食材を使ったランチやディナーのコース料理、弁当を提供。

県輸出促進課は「フェアを通じて福岡県の素晴らしさを香港の人々にもっと知ってもらいたい。今後も県産品の輸出拡大に取り組んでいく」と話している。

**病気の子一時預かり無償化 福岡県、若い世代の
子育て後押し 2023年度事業費2億円**

急な発熱や体調不良の子どもを一時的に預かる病児保育について、福岡県は2023年度から、利用料を無償化する方針を固めた。共働き世帯の増加で利用ニーズは高まっており、県独自に全額を支援することで、若い世代の出産・子育てを後押しする狙い。県によると、都道府県レベルでの無償化は全国5例目で、九州では初めて。

病児保育は、インフルエンザ感染などの病気になった子どもたちを、普段通う保育所の代わりに預かる仕組み。仕事を休むのが難しい保護者にとってのセーフティーネットで、岸田文雄首相が唱える「異次元の少子化対策」でも支援の拡充が検討されている。

児童福祉法で病児保育の実施は市町村の努力義務とされ、市町村が病院などに事業委託しているほか、企業主導型保育施設の一部が取り組んでいる。県内の病児保育施設は22年4月時点で約200あり、市町村委託施設だけで年間延べ約5万人が利用している。

県は4月以降、福岡、北九州の両政令市を含む県内全域で無償化を実施する方針。民間施設を含めた年間利用者数を延べ約10万人と見込み、利用料全額を補助する。事業費は約2億円で、23年度新設予定の「出産・子育て安心基金」（120億円規模）から充てる。

北九州地区

【大会開催に感謝】

ゆくはしハーフマラソン3年ぶり

行橋市で1月29日に開かれた「ゆくはしシーサイドハーフマラソン2023」は、京築地区では冬場最大のイベント。新型コロナの影響で21、22年は中止だっただけに、開催を心待ちにしていた市民ランナーらが集結した。自己ベストに挑んだり、奇抜な衣装で登場したり、それぞれのスタイルを楽しんだ。

ハーフマラソン男子1位の友森敬一郎さん（31）＝山口県防府市＝は、フルマラソン大会で優勝経験もある会社員ランナー。今大会は初出場した前회가2位だったため、優勝を目標に掲げ、3年待ってついに実現させた。「(中止が相次いだ)大会が次々に戻ってきて、すごくうれしい」と友森さん。毎週のように各地の大会に出場しているという。

女子1位の俵千香さん（39）＝小倉北区＝も、各地の大会で優勝の常連だ。今大会には2位だった前回に続く3回目の出場だった。「大会を開催していただき、感謝でいっぱい」と話し、優勝を喜んだ。

今大会はハーフマラソンに1825人、5*（高校、大学、一般）に219人、2・5*（小中学生）に320人が出走。沿道からは力走するランナーに多くの声援が送られた。

新練習船「かざはや」進水

船員養成機関の独立行政法人海技教育機構（横浜市）は2月1日、新造した練習船「かざはや」（56ト）の進水式を北九州市の造船所で開いた。物資の積み降ろしができるクレーンを搭載。船員の訓練だけでなく、災害時の物資輸送や被災者の避難にも活用する。3月20日に就航予定。

海技教育機構によるとかざはやは全長約20m、全幅6mで、定員は50人。所管する国立清水海上技術短期大学校（静岡市）が約28年間にわたって使ってきた校内練習船が老朽化したため新造した。

進水式には地元の小学生約80人のほか、国土交通省や短期大学校の関係者らが出席。正午ごろ、船につながれたロープが切断されると、船体は岸をゆっくりと滑り出し、海に入った。見守った関係者からは大きな拍手が起こった。

海技教育機構の田島哲明理事長は「かざはやは船員教育の一環として、座学（で得た知識）をすぐ実践するための船だ」と期待を込めた。

94歳の陶芸家宮崎さんの「エイコ窯」

2月4日から1500点展示販売

94歳の陶芸家、宮崎エイ子さんの作品約1500点

を展示販売する「エイコ窯」が2月4日、北九州市八幡西区東川頭町の自宅にオープンした。宮崎さんは昨年夏から高齢者福祉施設に移っており、長女でフラダンス講師の小西潤子さん（71）＝同区＝が「母の作品を多くの人に見てもらいたい」と準備を進めた。

宮崎さんが陶芸を始めたのは40代半ば。秀高窯（岡垣町）などに師事し、色や濃淡が異なる土を組み合わせた「練り込み」の作品で県美術展や西日本陶芸美術展での入選を重ねた。夫を亡くし、自身が77歳の時に脳腫瘍で倒れた後も、ろくろと電気窯を備えた自宅で1人暮らしを続けながら作陶に励んだという。

宮崎さんが施設に移った後、結婚して離れて暮らす小西さんは事実上の空き家となった実家を整理。戸棚などに残された皿や食器、つぼなどを手に取り、早朝から土をこねていた母の姿を思い浮かべた。

手間がかかる「練り込み」の器は市販の陶器にはない手作りの温かさがある。「欲しいという人も多いのでは」という友人のアドバイスもあり、作品を展示販売することに。1カ月かけてほこりを払い、「エイコ窯」と名付けた部屋の棚に母の写真とともに並べた。

「私もいつまで実家を管理できるか分からない。誰かの手で作品が大事に使ってもらえれば母も喜ぶと思います」と小西さん。

“ロボット”と読書の楽しみ

町図書館が閉館中、みやこ町に自腹で開設

町立図書館の再編が進むみやこ町で、平成筑豊鉄道犀川駅前の商店街空き地に、ロボットの形をした“ミニ図書館”が誕生した。木製ロボットの腹部に扉付きの本箱があり、絵本など子ども向けの約100冊が入っている。扉に鍵はなく、いつでも、誰でも、自由に借りて読んだら返す緩いシステム。家庭で読み聞かせをする親や子どもたちに喜ばれている。

近くに住む元荻田町職員の山崎周作さん（72）が昨年末、所有する空き地に開設した。1990年の荻田町立図書館、2001年の旧豊津町立図書館（現みやこ町中央図書館）開館などに尽力し、豊津では副館長も務めた専門家だ。近年、子どもが本に親しむ環境の減退を案じてきた。

みやこ町は財政難による公共施設再配置計画に伴い、合併前の旧3町地区にある町立図書館3館を4月に1館に統合する予定。犀川と勝山の図書館はスペースや蔵書を大幅縮小し、町図書館（現中央図書館）の分室にする。現在は準備のため3館とも長期休館中だ。

福岡地区

福岡市の新屋台、13人決まる 長浜地区に7人

福岡市屋台選定委員会は2月1日、市中心部の5地区13枠で公募していた新たな屋台経営者13人を選定した。今回は倍率が過去最高の5倍となり、初めて全ての募集枠が埋まった。かつて屋台が並んだ長浜地区では新たに7人が合格し、一帯のにぎわいに期待がかかる。

公募していたのは昭和通（2枠）、清流公園（1枠）、天神中央（2枠）、渡辺通（1枠）、長浜（7枠）の各地区で、65人が応募。これまで手が挙がりにくかった長浜地区では、隣り合う場所を確保でき、加点対象にもなるグループでの提案も呼びかけていた。

市は2月10日までに応募者に結果を通知し、新規屋台は6～7月に営業を開始する。市内の屋台軒数は近年、100軒前後で推移。現在は96軒で、今夏には最大109軒に増える見通し。

青銅武器作る「鑄型」発見

福岡市博多区の高畑遺跡

福岡市は2月2日、同市博多区の高畑遺跡で、弥生時代後期前半（紀元1～2世紀ごろ）の青銅武器「広形銅戈」の鑄型の両面が発見されたと発表した。表面と裏面を合わせて間に溶かした青銅を流し込んで使われたとみられ、対で見つかるのは全国初。市担当者は「両面が見つかったことで、青銅武器の生産方法を解明する手がかりになるのでは」としている。

鑄型は長さ約44センチ、幅約21センチで、両面を合わせた厚さは約15センチ。重さはそれぞれ約14キログラムと約19キログラムだった。材質は「石英長石斑岩」という石で、熱に強く加工しやすいのが特徴という。昨年5月に地表から約1・5メートルの土器の廃棄場所で同時に発見され、溶かした青銅を入れる器も出土。銅戈は見つかっていない。

鑄型を3Dスキャナーで分析したところ、型に少しずれがあったが、両面を合わせる目印とみられる線が一致したという。

広形銅戈の鑄型はこれまで、春日市など県内6カ所と佐賀県鳥栖市の計7カ所で発見されているが、片面のみだったり欠けていたりしていた。今回の鑄型は状態も良いという。福岡市は3～5月に同区の市埋蔵文化財センターで一般公開する予定。

銅戈は刃を木の柄に付ける武器で、弥生時代中期初めに朝鮮半島から北部九州に伝わった。広形銅戈は次第に大型化し、祭りの道具として使われたと考えられている。

「低い山でも準備を」大野城市の

黒金山で救助訓練 警察と消防が手順確認

福岡県警春日署と春日・大野城・那珂川消防組合消防本部は1月31日、大野城市の黒金山（約400メートル）で山岳救助の訓練をした。約40人が参加し、救助や搬送の手順を確認した。

山頂付近で男性2人が遭難し、うち1人が足をけがして自力で下山できないという想定で実施。県警のヘリコプターなどで遭難場所を特定し、署の山岳捜索チーム員らが担架で負傷者役を搬送した。

県警によると、2022年に県内であった山岳遭難事件は、前年比8件増の54件。春日署管内では昨年9月、黒金山で女性1人が道に迷って下山できなくなる事案が発生した。大津良祐署長は「アウトドアブームで登山に興味を持つ人が増えているが、低い山でもルートを外れると遭難してしまう。しっかり準備した上で登ってほしい」と話した。

古賀市が「1日市長」を初募集

小学4～5年、記者会見など体験

市長の公務を知ることで、小学生たちに街の未来や市政に関心を持ってもらおうと、古賀市が「1日市長」体験の参加者を募集している。初めての試み。市長室で決裁をしたり、記者会見を開いたりする。

3月28日午前9時半から2時間半、市役所と議場で市長の仕事学ぶ。田辺一城市長と懇談後、市長室で職員の説明を受けながら模擬の決裁を体験。議場での議案説明や市民との交流、記者会見にも挑戦する。

市経営戦略課は「自分たちの街は自分たちでつくるという意識を持つきっかけになれば」と期待する。

参加無料。対象は市内の小学4～5年生。定員は8人程度（応募多数の場合は抽選）。2月28日までに市の公式ラインで申し込む。同課＝092（942）1113。

最高賞に茂永さん、江崎さん

福岡市で九州ピアノコンクール

93人が練習の成果披露

第33回九州ピアノコンクール（西日本ピアノ指導者連盟主催、西日本新聞社後援）の決勝大会が2月5日、福岡市中央区で開かれ、九州内の予選を勝ち上がった幼児から一般までの93人が、練習の成果を披露した。最高賞の「西日本新聞社賞」に「自由曲の部」で高校2年の茂永紗來さん（糸島市）が、「課題曲の部」で小学4年の江崎彩乃さん（八女市）が選ばれた。

筑豊地区

宮若の四季を金属壁画に 鉄工芸家が市に寄贈

宮若市の鉄工芸家石橋鉄心さん(78)が、新作の金属壁画「宮若の四季」を市に寄贈した。犬鳴川に飛び交うホタルや、冠雪した六ヶ岳など宮若の春夏秋冬の風景を、1枚のステンレス板に鉄板や鉄くぎなどを使って表現した。市は市役所1階多目的ホールに展示した。

石橋さんは直方市植木出身。昭和の終わりに宮若市龍徳に移り、「鉄の美術館」を主宰している。

作品は縦66・5センチ、横106・5センチで、重さ15キログラム。市の木・桜や市の花・ヒガンバナもあしらい、昨年10月から約1カ月かけて仕上げた。桜の花の中にはハートマークを描き、犬鳴川沿いに並ぶヒガンバナは人が手をつなぎ合っているようにも見える。「平穏で人と人が手を取り合って市を盛り立て、幸せに暮らせるまちであってほしい、との願いを込めた」と石橋さん。

1月20日に市役所で寄贈式があり、ホールに展示された作品の前で、石橋さんが塩川秀敏市長に目録を手渡した。「第二のふるさと」という市に作品を贈ることができ、「大変光栄。ますます創作意欲が湧く」と感謝した。

途絶えた豆まき復活見据え「節分祭」 飯塚市の曩祖八幡宮

飯塚市宮町の曩祖八幡宮で節分祭があり、40年前に途絶えた豆まきの復活を見据えて、参拝者らに豆を小袋に入れた「招福豆」と紅白餅が配られた。

八幡宮の清掃などに取り組む「壇の上会」によると、同宮では節分に合わせて参拝客らによる豆まきが境内で行われてきたが、1983年を最後に途絶えていたという。

今回は、地域の習わしを取り戻そうと、まずは会が豆を配った。会の竹下茂木さんは「来年は祭りの規模をもっと大きくし、子どもが鬼に豆をまけるようなイベントも用意したい」と完全復活に意欲をみせた。

祭りは近くの観音寺と合同で開催。2月3日に神事や寺での護摩たき、4日に豆を配った。同日は、嘉麻市上山田の射手引神社を拠点に活動する創作神楽グループ「弥栄神楽座」が神楽を奉納。約100人が見守る中、地元の小中学生ら13人がオリジナルの舞や曲を披露した。メンバーの上山田小4年生、金崎遼颯さん(9)は「動きを合わせるのが難しかったけど、上手に踊れてよかった」と息を弾ませていた。

鞍手町役場の新庁舎が起工 25年1月に利用開始

鞍手町役場新庁舎の起工式が2月1日、現地であった。「町民が集う」ことを目指し、遊具を置く子ども広場などを備えた複合施設となる。「環境との共生」も掲げて太陽光発電システムなどを導入し、2025年1月に開庁する見通し。

新庁舎は鉄筋コンクリート3階建てで、延べ床面積5654平方メートル。1階には市民窓口のほか、多目的ホールも設けてイベントなどに開放する。2階には子ども広場とデッキでつながるテラス、飲食売店や執務室、3階には議場や災害対策室(大会議室)などを置く計画だ。

屋上にパネルを置く太陽光発電システムは1日最大出力160キロワット。雨水はトイレに、地中熱は空調に利用し、「省エネと創エネ」の実現を目指す。

敷地には、子ども広場のほか、町歴史民俗博物館別館(石炭資料館)や災害備蓄倉庫、町消防団本部を併設した車庫棟も建てる。

高級納豆「嘉麻ひすい」開発 嘉麻市民出資の会社、特産品第3弾

嘉麻市の活性化に取り組む市民出資の株式会社「かま」が、市内で育てた青大豆のキヨミドリを材料にした高級納豆「嘉麻ひすい納豆」を開発し、販売を始めた。大粒でふわっとした食感に、豆本来の香ばしさや甘さも残る「深い味わいが売り」という。生枝豆やおぼろ豆腐に続く第3弾の特産品として、輸出も視野に入れている。

キヨミドリは温暖な気候に適した品種。市内では、かまが地元農家の辻田光之さん(65)の協力を得て4年前から遠賀川沿いの畑で栽培を始めた。風味が豊かで濃い緑色をしていることから、宝石のヒスイにちなんで「嘉麻ひすい」と名付けてPRしている。

かまの有田栄公社長(51)によると、生産量は「全国的に希少」。同社は特産品づくりによって地域活性化につなげようと、1年に数日間しか収穫できない「生枝豆」や、地元の豆腐店と連携した「おぼろ豆腐」を製造、販売してきた。

第3弾となる納豆の製造は、宮城県の大豆専門店に委託した。大豆本来の味を生かすため、タレは無香料で薄味。今後は香港やドバイなど、海外での販売も検討しているという。

生産者の辻田さんは「手塩にかけて育てたキヨミドリの納豆をぜひ食べてほしい」と話す。販売はインターネットによる市農産物の産直サイト「かまチョコ」で、贈答用が1箱6パック入り5400円(税込み)。飯塚市鶴三緒の直売所「かほ兵衛の台所」で、市販用が1パック540円(同)。

筑後地区

「八女茶発祥600年」記念のロゴマーク 「八」角形にデザイン、市はPRに躍起

八女市黒木町笠原地区に茶が伝えられて600年になるのを記念して、八女市などで行く実行委員会は2月2日、「八女茶発祥600年」のロゴマークを発表した。

ロゴマークは「600」の文字を、八女市だけに「八」角形にデザインした。記念の年を広くアピールするため、茶のパッケージやイベント、広告などに活用される。

同市は今年、「八女茶で乾杯」を推奨する条例も施行する。三田村統之市長は「茶の市場規模は縮小しているが、さらなるブランド化、需要拡大を目指したい」とロゴに期待を込めた。

久留米市議会、常任委員会を ユーチューブで録画配信へ

久留米市議会の議会制度調査特別委員会は2月3日、常任委員会の録画を動画配信サイト「ユーチューブ」で配信する方針を固めた。15日に開かれる議会運営委員会で報告する。

対象は総務、教育民生、経済、建設の常任委員会、夏ごろから配信を始める予定だ。議会改革の一環で昨年夏から、配信について本格的に検討を開始。費用や手法について話し合いを重ねてきた。

久留米市は新型コロナウイルス感染症の流行が始まった2020年以降、市民らの委員会傍聴の自粛を呼びかけている。調査特別委員会は「市民に配信を見ていただき、意見をもらえれば」と話している。

最新技術の観光イチゴ農園、小郡市に完成 つり下げ可動式のプラント

最新技術を駆使したビニールハウスの観光農園「いただきいちご園」が小郡市井上に完成し2月5日、プレオープン式典があった。車いす利用者や幼児でも楽に摘み取れるように、つり下げた可動式のプラントからイチゴを摘み取る県内初のスタイル。11日に正式開業し、5月7日まで土日、祝日に営業する。

イチゴ園は、農業の経営支援などを担うアグリ・クリエイティブ・シード社（佐賀市）が「スマート農業で地域振興を」と約500平方メートルのハウスに整備。プラントが並ぶ22レーンに、「紅ほっぺ」「よつばし」など8種類を栽培する。

室温は、日照に応じて15～25度に自動設定。水、肥料も自動制御装置で供給し二酸化炭素（CO₂）濃度も自動調整されている。プラントは高さ1.2メートル～2.3メートルで上げ下げ可能。事業費は約4千万円。

不作に負けぬ！ノリノリ給食 「海苔の日」の6日、柳川市の全小中学校で県産品

「海苔の日」の2月6日、柳川市の全小中学校で学校給食に県産のりが出された。例年は福岡有明海漁連（同市）が新のりを寄贈しているが、今季は記録的不作のため昨季の新のりを直前に加工して提供した。

同市大和町の有明小では児童の家族や親戚にノリ養殖の関係者もいる。子どもたちは生産者が不作に負けないよう願いながら、ごはんと厚焼き卵、ニラのサラダをのりで巻いた手巻きずしを頬張った。

祖父がノリ養殖業という5年の塩塚あいらさん（11）は「おじいちゃん、頑張っているノリを作って」とエールを送って味わった。

広川で「ブラジルチドメグサ」大繁殖 外来水草、防災に懸念も

広川町内を流れる筑後川の支流・広川で、水草が川面を埋め尽くすように大繁殖している。生態系や農業にも被害を及ぼす「ブラジルチドメグサ」とみられ、南米原産だが真冬にもかかわらず青々と生い茂っている。住民からは「水害時に水をせき止めて被害が拡大するかもしれない」と不安の声が上がっている。

1月下旬、同町新代地区と太田地区の間にかかる広川橋から広川を眺めると、約15メートルある川幅いっぱい緑色に染まっていた。直径5センチほどで、切り込みが入った丸い葉を持つ水草。さらに茎を伸ばしながら、繁殖を広げる様子も見られる。流れに沿って歩くと、幅数メートルに及ぶ群生がいくつも確認できた。

福岡市植物園によると、この水草はセリ科の「ブラジルチドメグサ」とみられる。南米原産で元々は観賞用に持ち込まれた。繁殖力が強く、在来種の水草類を駆逐して生態系を破壊する恐れがあるため、外来生物法で輸入・飼育・放出などが禁じられた特定外来生物に指定されている。全国的に問題になっており、2007年に筑後川上流などでも繁殖が確認された。

ブラジルチドメグサは水門近くに集まって繁殖する。このため取水口が詰まったり、水門の開閉ができなくなったりする恐れもあり、広川を管理する八女県土整備事務所は常時、河川監視を行う。

難点は生命力の強さ。ブラジルチドメグサは伐採した茎の切れ端からも再生し、土の中に潜り込むこともある。さらに茎が絡まり合うと分厚いマット状になって人力での除去が難しくなるため、数年前には重機で除去したこともあったという。

同事務所は「河川の流水が妨げられるかどうかの一つの判断基準。春先の繁殖状況を見て、取水期前までに対応するかを検討する」と話している。



博物館・美術館探訪 第27回



北九州地区

スペースLABO (北九州市科学館)

〒805-0071 北九州市八幡東区東田4-1-1 ☎093-671-4566

当館は、スペースワールド跡地となる八幡東区東田地区の大型商業施設内に2022年4月28日にオープンした。これまでに閉園したスペースワールドや北九州市立児童文化科学館のそれぞれの歴史を受け継ぎ、科学や技術への興味・関心を高め、未来を担う人材を育み、地域の賑わいを創出する科学館として誕生した。

一人一人が感じる「フシギ」の芽を大切に、その芽をさらに育

んでいく体験・体感型の科学館で、1・2階が「サイエンスLABO」（常設展示）、3階がプラネタリウムとなっている。

1階の「サイエンスLABO」は国内最大の大型竜巻発生装置（高さ約10m）を中心に、北九州市と科学の歩み、災害や防災対策、北九州市出身で気象学の世界的権威であるミスター・トルネードと呼ばれた藤田博士の功績を紹介している。

2階の「サイエンスLABO」は感じて考えるエリアで、不思議な科学現象による9つのシンボル展示を通して、楽しみながら科学的思考を養うゾーンとなっている。

3階のプラネタリウムは内径30mで国内最大級。ドームに映し出す究極に再現されたリアルな星空と、高精細なデジタル映像が融合したハイブリッドプラネタリウムである。またプラネタリウムの待合スペースとなる「スペースラウンジ」には、スペースワールドから引き継いだ月の石、スペースシャトルのメインエンジン、アポロ司令船等の貴重な資料を展示している。

【アクセス】 JR鹿児島本線「スペースワールド駅」下車徒歩約3分、北九州都市高速「枝光出入口」より車で約3分
(柳井 雅也)



竜巻発生装置



筑後地区

九州歴史資料館

〒838-0106 小郡市三沢5208-3 ☎0942-75-9575

当館は、小郡市にある県立の歴史博物館。大陸と向き合い、古くから対外交流の窓口としての役割を果たしてきた九州の歴史とその特質を明らかにするため、

1973年に太宰府市に開館した。その後建物の老朽化と隣接地に九州国立博物館が開館することになったので、2010年に小郡市に移転。小郡市には、多くの遺跡が存在し、当館は県指定史跡三沢遺跡に隣接している。

開館以来、大宰府史跡の発掘調査や各地の仏像及び古文書調査など多角的な研究を進めてきた。展示室では、県内遺跡の出土品展示など古代から近代にいたる福岡県の歴史をたどることができる。甕棺のオープン展示や器や陶磁器の「引き出し展示」により間近に質感や詳細を見ることができ、展示室の床がガラス張りになっているところもあり、九州各地の遺跡で出土した発掘現場の一部を真上から覗き込むこともできる。

中庭からは文化財の修復作業を見ることができ、VR体験などを通じて古代体験ができ、子供から大人まで楽しめる。

さらに当館は、原文書のほか写真・絵葉書など10万点を超える県史編纂史料を、県地域史研究所から移管され、閲覧およびレファレンス業務も行っている。

【アクセス】 西鉄天神大牟田線「三国が丘駅」徒歩10分

(牛島 康明)





当会報の「郷土の先達」にかつて掲載された作家松本清張^{せいちょう}は、社会派推理小説のジャンルを確立したことで知られる。作品領域は現代小説、歴史小説、評論、伝記、古代史研究、現代史などに及び、国民的作家といわれるほどの活躍をした。44歳で上京し、杉並区や練馬区に住んでいたため、小説の舞台として都内各地が登場する。（牛島 康明）

深大寺



深大寺山門



深大寺本堂

所 調布市深大寺元町5-15-1

交 京王線調布駅または、つつじヶ丘駅よりバス15分

松本の小説『波の塔』は、謎めいた人妻と若い検事の恋愛を主題にしている。女の夫の行動は、官界を巡る汚職事件へと発展し、夫は摘発された。若い検事は、容疑者の妻と交際していたことが原因で職を追われ、人妻は富士の樹海へと一人消える。

この小説の重要な舞台となるのが、天平5年(733)に創建され、東日本最古の国宝仏「釈迦如来像」がある深大寺である。また寺の近くには名物「深大寺そば」の店が多くなり賑わいを見せている。

「寺は古かった・・桃山時代の建築というから古いものである」「静かだった。都心から乗り物で一時間ぐらいの距離に、まだこんな場所が残っていたかと、輪香子も驚いたくらいだった」「ふと山門の方を見ると、・・一組の男女がならんで石段をおりてくるところだった。恰好のいい洋服と、すらりと着付けのきれいな和服の女性などは、目が瞬間に捕えた印象だったが・・」

女と男は、深大寺を後にして乗り物には乗らず、二人で林の中や畑の広がる道を暫く楽しげに歩いた。ふと気が付くと古い石垣に突き当たりその上には樹林がつづいていた。

「なんでしょう？」頼子が石垣の上を見上げたが、分からなかった。「天文台ですよ、三鷹の」小野木が言った。「あら、ここがそうなの」頼子は目をみはった。大きくあけたときの瞳がきれいなのである。・・・「いいところに連れてきてくださったわ」と言ったのは、古い寺を見たことも含めてだった。

三鷹市にある国立天文台の本部である三鷹キャンパスは、大正13年(1924)、関東大震災の翌年に麻布から移転。当時は東京帝国大学付属東京天文台という名称だった。国立天文台と改称したのは昭和63年(1988)。広大な敷地の中に樹林が広がり、観測施設が点在する。

所 三鷹市大沢2-21-1

交 JR三鷹駅からバス20分

深大寺からは徒歩20分

国立天文台



国立天文台三鷹キャンパス



屈折望遠鏡

富士見台霊園



松本清張の墓

八王子市大谷町にある大善寺という寺院に隣接して富士見台霊園があるが、その最上部の眺めのいい場所に、松本清張は眠っている。戒名は「清閑院釋文張」。

明治42年(1909)に生まれ、平成4年(1992)8月4日に82歳で逝去。『或る「小倉日記」伝』で芥川賞を受賞後、『点と線』『砂の器』などの作品で清張ブームを引き起こし、『日本の黒い霧』では社会派ノンフィクションの先駆けとなった。受賞歴は吉川英治文学賞、菊池寛賞、NHK放送文化賞など多数。清張の作品では多くの場合、加害者は反面被害者でもあった。過酷な環境ゆえの犯罪、同情されるべき存在として描かれた。

所 八王子市大谷町1019-1

交 JR八王子駅から徒歩25分、バス10分



平山トオル



平山トオルさん(会員)

音楽劇のご案内

会報誌『東京と福岡』令和4年10月号「スポットライト」にて紹介された、福岡県生まれ、明善高校出身の平山トオルさん出演の音楽劇『ダ・ポンテ』が開催されます。

全日程については
『ダ・ポンテ』公式ホームページ
<https://www.tohostage.com/dp/>
にてご確認ください。

※会員様のチケット予約は、メールにてご連絡ください。

メール: toru1145@gmail.com

平山トオルさんからのメッセージ

昨年開催されたミュージカル『クリスマス・キャロル』に於いて、多くの県人会の皆様を観劇に駆けつけ

ていただき、誠にありがとうございました。

今回、東宝制作の音楽劇『ダ・ポンテ』という素敵な舞台に出演することが決まりました。モーツァルトのオペラ『フィガロの結婚』『ドン・ジョバンニ』『コジ・ファン・トゥツテ』の台本作家である、もう一人の天才「ダ・ポンテ」の物語です。

モーツァルトがあまりにも世に知られてしまったために、彼には注目が集まりませんでした。そのような人物に焦点を当てた新作の音楽劇で、とても楽しくなりそうな舞台です。出演者にはミュージカル界若手ナンバーワン海宝直人さんをはじめ、今話題の方々のお名前も並んでおります。私も頑張らせていただきます。皆様のお越しをお待ちしております。

東京福岡県人会会員 平山トオル

長い人生の瞬間を照らす花火——
君は最高の相棒

Introduction

モーツァルトの名作オペラ『フィガロの結婚』『ドン・ジョバンニ』『コジ・ファン・トゥツテ』200年以上を経て今なお愛される作品が誕生した背景には、台本作家「ダ・ポンテ」の存在があった。ダ・ポンテがモーツァルトと並ぶ天才の才能を開花させたのは、彼の80年を超える生涯のうち4年と6か月の間、それは人生で最も輝いた、輝くもかけがえのない期間だった。時代の波に抗い、偏見を乗り越え、制作に没頭した若き天才たちの軌跡を、オリジナルの音楽劇でお届けします。

Story

1829年ニューヨーク、年若いロレンツォ・ダ・ポンテ(海宝直人)が病身の妻の面影を見ながら、若かりし頃を回想するところから物語は始まる。

1782年ウィーン、大好きで音楽師のダ・ポンテは、ある事件を起こし、放逐ヴェネツィアを迫られ、その才覚と手練手管でウィーンの宮廷劇場詩人の座までのぼり詰める。しかし、宮廷作曲家アントニオ・サリエリ(相葉裕樹)に言われるがままに書いたオペラの題名を盗用され、行き先を失った。そんなダ・ポンテの前に現れた、作曲家ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(平山トオル)。彼もまたあふれる才能を持っていた。二人は意気投合し、革新的なオペラを作ることを決意する。

キャスト:

大島里美 笠松泰洋 青木豪
相葉裕樹 海宝直人 平間壮一
相葉裕樹 井上小百合 田村芽実 青野紗穂 八十田勇一

2023
6.21(木)~25(月) シアター1010 (俳優・音楽)
7.9(土)~16(金) 東京建物 Brillia HALL (俳優・音楽)

2023
3.11(土)~10(日) 各プレイガイドにて一般発売開始

モーツァルトの名作オペラを書いた破天荒なベテラン師——
世界で一番不幸で、幸運な詩人の物語

音楽劇

Da Ponte
ダ・ポンテ

モーツァルトの影に隠れたもう一人の天才

作:大島里美 音楽:笠松泰洋 演出:青木豪

海宝直人 平間壮一
相葉裕樹 井上小百合 田村芽実 青野紗穂 八十田勇一

2023
6.21(木)~25(月) シアター1010 (俳優・音楽) 7.9(土)~16(金) 東京建物 Brillia HALL (俳優・音楽)



明治記念館

令和5年度 総会・懇親会 10月26日(木)を予定

1月17日、第1回実行委員会が筑豊地区の皆様ご出席のもと開催されました。

担当副会長は福山祐子氏(田川高)、実行委員長に田中寛利理事(嘉穂高)、副実行委員長に塚本哲理事(嘉穂高)、柴田芳彰氏(嘉穂東高)が選出されました。

この中で、来年度の総会・懇親会は10月26日(木)に明治記念館にて開催することが内定されました。正式に決定次第お知らせいたします。

新型コロナウイルスの収束状況にも依りますが、来年度は4000名規模での開催を目指しています。

皆様ご予定いただきますようお願いいたします。

県人会事務局から 令和5年度 年会費納入のお願い

県人会は、会員の皆様の年会費によって運営させていただいております。

毎年、会報3月号に次年度(4月1日から翌年3月末)までの会費納入のお願い状と「払込取扱票」を挟み込んでおります。本誌にも挟み込まれておりまして、会費のお振込みをお願い申し上げます。

なお、2021年度、2022年度のお振込みがお済みでない方にはそれぞれ2年分、3年分の会費分を挟み込んでおりますので、速やかにお振込みいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、行き違いで納めていただいた場合はご容赦いただきますようお願い申し上げます。

広告掲載のお願い

会報「東京と福岡」は会員や関係各位の皆様をつなぐ、県人会活動の柱の一つです。会員はもとより、福岡県下のほとんどの市町村、友好企業や海外福岡県人会など、多くの方々に購読いただいています。

会報の制作費は、皆様のご厚意による「広告掲載料」により発行、維持されています。つきましては、本誌に広告掲載のご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

太宰府天満宮 「梅の使節」ご来訪

2月14日、太宰府天満宮より恒例の「梅の使節」が来訪されました。西高辻信宏宮司とお二人の巫女さんなど総勢5名の使節団です。

県人会を代表して、鬼塚副会長と自見副会長、田島事務局長が出席し、徳本裕子福岡県東京事務所副所長とともに、梅鉢をいただきました。

梅の花は県花として県民に親しまれ、馥郁とした香りを漂わせ、春の訪れを一足先に告げる清純な花。その花に願いを込めて親善の「梅の使節団」を派遣されています。



同好会だより

第92回皇居を走ろう!!

同好会開催報告

2023年第2回目の「皇居を走ろう!!同好会福岡」は、2月4日(土)午後5時より、参加者24名が平川門側に集合して賑やかに開催されました。夕暮れ時はまだまだ肌寒さを感じる季節ですが、それでも開催の度に陽が長くなっている事を実感しつつ、春の訪れを待ち侘びながらの、楽しい皇居一周ランニングとなりました。参加者は、集合前に既に皇居を一周から2周(一周は約5キロ)走っているベテラン組、皇居一周の景色を楽しむ事を優先したウォーキング&ラン組など様々でしたが、それぞれが自分のペースに合わせて皇居を周回し、気持ちの良い汗を流しました。



ランニング後は、最寄りのランニングステーションでシャワーを浴びた後、希望者(21名)による懇親会が、基本的なコロナ対策を充分に行なった上で開催されました。初参加者2名の紹介もあり、1名は県内の高校時代の先輩に声を掛けられ、ランニングには余り興味は無かったけれど、ダイエット効果も有

りそうなのでこれからも参加しますと挨拶、別の1名はランニング歴も長くフルマラソンにも何度も参加され、一般ランナーとしてはハイレベルな記録を持つベテランで、大変楽しかったのでもた参加しますと挨拶されました。これから春を迎えて季節も良くなり、皇居の景色も回を重ねる度に、異なる美しい姿をみせてくれる事と思います。ご興味のある方は、どなたでもいつでも大歓迎です。楽しい同郷仲間と或いは健康維持や体力強化のために走る仲間と一緒に、気持ちの良い汗を流しませんか?皆様のご参加をお待ちしています。

次回 第93回 開催連絡

日時:令和5年3月4日(土)午後5時
集合:皇居北端「平川門」先のベンチエリア

着替え:「ラフィネ・ランニングスタイル神田店」が便利です

(1回600円)

千代田区内神田1-8-1

三井ビル1階 地下鉄「大手町」

駅又はJR神田駅より徒歩5分

参加費:無料

申込み・お問い合わせ先

世話人 土井・糸山

090-7007-3627 (携帯)

takecs@nifty.com

同好会公式サイト立ち上げました。

<https://it.link/kokyorun2015fukuoka>

YouTubeサイトもご覧いただけます。

QRコード読み取りにて閲覧可能です。



福岡の物産展

大九州展

会場 3月8日(水)~3月13日(月)

10時~19時

最終日は18時閉場

会場 日本橋三越 7階催物場

8社出展予定

中央区日本橋室町1-4-1

東京メトロ「三越前駅」1分

03-3241-3311

大九州展

会場 3月8日(水)~3月14日(火)

10時~20時

最終日は17時閉場

会場 京王百貨店新宿店7階大催場

14社出展予定

新宿区西新宿1-1-4

JR「新宿駅」中央西口1分

0570-022-810

47都道府県にっぽんのグルメショー

会場 3月9日(木)~3月14日(火)

10時~19時

最終日は17時閉場

会場 東武百貨店池袋店8階催事場

4社出展予定

豊島区西池袋1-1-25

JR「池袋駅」中央改札1分

0570-086-102

福岡特別販売会

会場 3月16日(木)~3月22日(水)

10時~20時

会場 東急百貨店 二子玉川店

地階催事場

3社出展予定

世田谷区玉川2-21-1

東急「二子玉川駅」直結

03-6805-7111

福岡老舗名店の味

会場 3月22日(水)~3月28日(火)

10時~20時

東急百貨店 青葉台店

地階催事場

10社出展予定

横浜市青葉区青葉台2-1-1

東急「青葉台駅」1分

045-985-8109

福岡うまかもん市

会場 3月29日(水)~4月4日(火)

10時半~19時半

高島屋日本橋店 地階催事場

8社出展予定

中央区日本橋2-4-1

東京メトロ「日本橋駅」直結

03-3211-4111

福岡県の食彩と技巧展

会場 3月30日(木)~4月5日(水)

10時~20時

最終日は17時閉場

東急百貨店 吉祥寺店

8階催物場

18社出展予定

武蔵野市吉祥寺本町2-3-1

JR「吉祥寺駅」西口7分

0422-21-5111

お茶にせんね



銀座で一息

野^の田^だ恭^{やす}弘^{ひろ}

とある銀座の路地、歌舞伎座近くに小洒落たドアのお店がある。

「皆さん、身体を休めにいらっしゃるんですよ」とご主人の娘の直子さん。ほとんど髪の毛もない私だが、じっくり一時間、髭剃りから顔剃りまで丁寧にやってくれる。

その床屋に行くようになったのは、東京から博多にある九州支社に転勤、そして再び東京に戻ってからのこと。銀座の床屋に通ってみたいという気持ちから散々歩き回って「ユタカ」という店に行きあたった。昔の週刊誌に『平凡パンチ』というのがあったが、その表紙を飾るイラストよろしく、ピンクストライプのボタンダウンシャツにベージュの綿パン。髪を刈るご主人の立ち姿に粋を感じた二度目の東京だった。

気さくなご主人。たちまちファンになり、月二回のペースで通うようになった。ビジネスマンは身嗜みが大切、油断してさぼると頭が生まれたてのヒナ鳥の様になってしまう。ある時、

いつもの椅子に座り、傍らの棚の上を見ると、オードリー・ヘップバーンの髪を刈るご主人のスナップ：えっ、そんなバカな？…合成写真！

茶目つ気たつぷりな御仁でもあるが、理容競技世界大会日本代表の経歴。有名なゴルフトーナメントのスポンサーからプロゴルフアーの髪型の乱れを直してほしいと頼まれ、出張理容に出掛けた逸話もある。ダンス協会の会長、歌舞伎役者や相撲の親方衆も通う。品格への思い。前髪は上げ、横髪は耳を出し、襟足は短めにの基本は譲らず。そう言いながら「若いって素晴らしいねえ」と、五十歳を過ぎて間もない私の肩をゆっくり揉んでくれた。

そんなある日、ご主人が店に姿を見せなくなった。娘さんから話を聞くと「人生の終わりの前にお客様に」と筆書きされた封を渡された。冒頭に「自分の職業は理容師です」とはじまり「お客様との様々な出会いに幸せな仕事が出来ましたが、いつも良い仕事が出来たかどうか？」



1956年 久留米市生まれ
1975年 明善高等学校卒業
1981年 早稲田大学第一文学部卒業
1981年 富士通(株)入社
1993年 富士通エフ・アイ・ピー(株)転籍
2019年 同社 専務取締役退任
2020年 久留米に戻り現在に至る

(カット 瀬知エリカ)

沢山のお客様に満足して頂けたでしょうか？…心配の種は一向に減りませんでした。後を継ぐ若者を信頼しているので、うるさく、うるさく指導を賜りたい」との思いが綴られ、そして最後に「こんなに幸せなのに、なぜ自分は逝くんだろう」という言葉で締め括られていた。

読み終えて、地下鉄の階段から広がる東京の青い空を眺めながら、涙がどっと溢れてきた。それから十五年経ち、今はUターンした故郷久留米からたまに上京すると、羽田から真っ直ぐ地下鉄東銀座駅に向かう。「あら、いらっしやい」と懐かしい声。そして、ご主人を思い浮かべながら椅子に座り、一息。今年も春が来た。そろそろまた行こうかな。

会員動向

◇入会者◇（二月十五日現在）
紹介者

富永 隼行（宗像市） 里村 雄
水沢 フウ（福岡市） 平山トオル

◇退会者◇
清水真由美

編集委員募集！

私たちと一緒に会報「東京と福岡」の編集に携わっていただける編集委員を募集しています。是非こちらまでお問い合わせをせたく下さい。info@fukuoka-kenjinkai.jp
一緒に新しい会報をつくりましょう。
また、皆様からの投稿（エッセー、写真、俳句、短歌等）も随時受け付けております。

地方選挙結果

筑紫野市市長選挙（1月22日）

当 17,908 平井 一三 無新
10,717 藤田 陽三 無新
4,153 浜武 振一 無新

大木町町長選挙（1月29日）

当 2,865 広松 栄治 無新
2,189 境 公雄 無新
612 中島 和正 無新
234 馬場 高志 無新

北九州市市長選挙（2月5日）

当 126,839 武内 和久 無新
112,614 津森 洋介 無新
28,336 永田 浩一 無新
27,788 清水 宏晃 無新

◇ インタビュー後記 ◇

京都絵美さんに初めてお会いしたのは、昨年の二月半ば、日本橋三越の個展会場でした。
美しい日本画に魅了され、さっそく会報のインタビューをお願いしたところ、了解いただいたのですが、コロナ禍もありなかなか実現しませんでした。ようやく十一月後半になって県人会事務局で再会することができました。京都さんは、女性や鳥や花の絵を描かれますが、今日の位置に立たれるまでに、持って生まれた才能と並々ならぬ研鑽があったことがよくわかりました。今後一層のご活躍を祈念しております。

牛島 康明

◇ 編集後記 ◇

受験シーズンもいよいよ本番大詰め。この会報も正しい文章や表現に細心の注意を払っている。校正中、日本語の多彩なことを愛おしく思いつつ、受験生たちの悩みの種になりえるとも考えると心中は複雑である。

さて、「今月の表紙」は宮若市からも覚めるような桜並木の一枚を贅沢に掲載。「郷土の先達」は有吉憲彰を取り上げた。「スポットライト」では画家の京都絵美さんが登場。繊細さを活かしつつ、強さと深みを追求した作品づくりに挑戦し続ける。「あの一とこのひと」は藤原誠二さんと中川絵梨香さんから寄稿いただいた。「なんでも広場」で紹介したスペースLABOはまだまだオープンしたての注目スポット。「郷土ゆかりの地を訪ねる」では、作家の松本清張と関わり深い三箇所を紹介。野田恭弘さん執筆の「銀座で一服」、読後感はまださにお茶にせんねの一言。平穩無事の日々を大事にしたい。

本誌が発行される頃には、受験生だった方々も次のステージを見据えて期待に胸を弾ませていると思う。そこに寄り添う桜大樹のように、静かにどっしりと未来を見守り続けたいものだ。

白石 雄士（編集委員）

今月の表紙

「宮若よかところ！」実感のまちづくり



宮若市長
しおかわ ひでとし
塩川 秀敏

宮若市は福岡市と北九州市の中間に位置し、九州自動車道の若宮IC、宮田スマートICを有する利便性から、プレミアムブランドのレクサスを生産するトヨタ自動車九州株式会社を核に、自動車関連企業が集積するものづくりのまちとして成長してきました。

近年では、産業の多様化に向け、ITで流通改革を目指すトリアルグループと連携し、地方分散型の事業展開を視野に入れたAI等先端技術を活用する新たな拠点地域の形成を目指すため、官民協働の地方創生事業に取り組んでいます。

併せて、SDGsの達成に向け、九州大学の馬奈木教授と連携し、包括的な豊かさを表す新国富指標を活用したまちづくりにも取り組んでいます。

さらにまちづくりの一環として、廃校が新たな施設として生まれ変わりました。昨年は、文化財収蔵・展示・交流センターやAI開発拠点、産地産直レストランがオープン。今後も変化し続ける宮若市にぜひご注目ください。

また、福岡の奥座敷として、奈良時代からの歴史が残る脇田温泉、教科書に載る国指定文化財の竹原古墳、浮世絵の祖と言われる岩佐又兵衛勝以の三十六歌仙絵、筑前三大放生会の1つである若宮八幡宮放生会など、自然と歴史・文化のまちでもあります。

そして、宮若市と言えばなんといってもお米です。黒田藩献上米の記録がある宮若米ですが、今日では米のおいしさを競う米・食味分析鑑定コンクール国際大会で何度も金賞を受賞。昨年行われた九州のお米食味コンクールでも、1,543検体の中から自治体部門で優勝するなど、着実にブランド化が進んできました。

宮若市のふるさと納税返礼品は、宮若米や今人気のピーズクッションYogiboなど興味をそそられる返礼品のほか、日本女子オープンが開催されたザ・クラシックゴルフ倶楽部でも使用できるゴルフ券や脇田温泉の宿泊券など体験型の返礼品もご用意していますので、ぜひご検討ください。

皆様のご健勝ご多幸をお祈りいたします。

「東京と福岡」の著作権は「東京福岡県人会または「原著者」に帰属します。無断複写転載を厳禁します。
「東京と福岡」についての意見は事務局まで。
E-mail: info@fukuoka-kenjinkai.jp

〈表紙題字 緒方竹虎筆〉

グラマラスな印刷デザインが webの世界に息吹く

私たちはただ印刷物を作りたいのではありません。何ができるの？と、問われれば真っ先にスマートフォンへ思いを馳せます。スマートフォン視聴を前提とした短尺動画と、専用LPを広告フォーマットにし、AR技術と組み合わせることで新しいUXを提供する商品を開発しました。魅力的なプリントメディアが、美的質感そのままに、「動画」「web」コンテンツへと一気に拡張します。



株式会社 博多印刷

〒812-0028 福岡市博多区須崎町8番5号 TEL (092) 281-0041(代) FAX (092) 281-5261
URL <http://www.hakata-p.co.jp> E-mail info@hakata-p.co.jp

Mita Kosan
Real estate-leasing company

三田興産株式会社
東京都港区芝5丁目13番18号いちご三田ビル9階
Tel.03-6275-1772
<https://www.mita-kosan.com>

おいしく飲めるプロテイン

ペプトレックス

自衛隊
採用!

製造・販売
アイエフシー株式会社
代表取締役社長 梅原英毅
電話:044-741-3271
URL:<http://www.ifcc.co.jp>

品質も、価格も、叶う家。

「日本の家は高すぎる」。その思いから家づくりにかかるコストを徹底的に削減することで、「高品質・適正価格」を追求してきました。

家の価格が下がれば、好きなことにお金が使えて、生活はもっと豊かになる。

長く快適に住める品質と、手に届きやすい価格を通じて、

住む人の人生をずっと支えていきたい、私たちはそう考えました。

建てて終わりではなく、建てたあとの幸せまでもつくれる住宅会社を目指して。

タマホームはこれからも、より良い家をより安く提供するための挑戦を続けていきます。



＼ 全国の店舗にてモデルハウスの見学会を開催中 ／



ご希望日時に予約来場いただくと、QUOカードを進呈しております。
この機会に「良質低価格」のモデルハウスを是非ご体感ください。

見学会詳細は左記のQRコードよりご確認いただけます。

おかげさまで、2020年度・注文住宅新設着工棟数が、全国3位となりました。

また、宮崎県・佐賀県・長崎県・大分県・香川県・山梨県の6県内におきましては、それぞれ1位となりました。

●2020年4月1日～2021年3月31日における確認申請棟数および(都市計画区域外)工事届棟数の合計数(株式会社マーケティングシステムズ調べ)

TamaHome®

タマホーム株式会社

本社 / 〒108-0074 東京都港区高輪3丁目22-9 タマホーム本社ビル www.tamahome.jp
[建設業許可番号] 国土交通大臣許可(特-30) 第19013号(般-30) 第19013号 [宅建業免許番号] 国土交通大臣(4) 第6857号